

# 進化経済学会ニューズレター No. 14

## June 2003

進化経済学会事務局

606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学経済学部気付

URL://www.econ.kyoto-u.ac.jp/societies/evolution

T:075-753-3427/3515 F:075-753-3492

e-mail:yagi@econ.kyoto-u.ac.jp:sawabe@econ.kyoto-u.ac.jp

郵便振替口座：01030-1-22493 (進化経済学会)

(7月からの事務委託先) 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3の8の8

国際文献印刷社内 進化経済学会事務局

T:03-5389-6493 E:evoeco-post@bunken.co.jp



\*\*\*\*記事\*\*\*\*

### 新しい息吹があらわれた大会

日本経済学会連合への加盟/事務局移転

第II期第8回、第III期第1回理事会報告

第7回会員総会報告

平成15年度予算/新入会者リスト

### *Evolutionary and Institutional Economics Review*

(刊行趣意/投稿案内)

昨年度部会活動報告

進化経済学開講の辞

第8回福井大会「市場と政府の共進化」コール・フォー・ペーパーズ

オータム・コンファレンス案内

学会関連出版物/名簿訂正/編集後記

## 新しい世代の息吹があらわれた大会

3月29(土)・30(日)の2日間、専修大学生田校舎120周年記念館において、進化経済学会第7回東京(専修大)大会が開催され、両日とも参加者は200名を超える盛況であった。もともと「進化」の素地である多様性にも強い関心をもってきたこの学会であるが、とくに今春の大会では、SNAと制度設計、内部観測論、システムナラトロジー、科学哲学が新たな独立セッションとして設けられるなど一層その多様性を増した。またポスターセッションのみならず、口頭報告・討論者でも若い世代の活躍が目立った大会でもあった。一方、M1くらいの聴衆を想定し、新しい話題をわかりやすく解説する、複雑適応系のチュートリアルも行われた。これは進化経済学の発展のためにも、ぜひこれからも拡大して行ってほしい。なお、日本酒・ワインの充実した懇親会はもちろん、WelcomeならぬFarewell Drinkにいたるまで最後まで賑やかな2日間であった。(運営委員会)

## 日本経済学会連合への加盟実現

本学会も1997年春の創立以来7年を迎えています。2回の役員選挙もおこない学会の活動も軌道にのって来ましたので、日本経済学会連合への加盟を申請しました。日本経済学会連合は、1950年に結成された組織で、これまでに57の学会が加盟しています。その活動内容は、外国人学者招聘滞日補助、国際会議派遣補助、学会会合費補助、英文年報などですが、学術会議の第3部(経済学・商学)と連携していますので、学術行政や国際学術交流について関連をもっています。各学会から2名の評議員が選出され、評議員会を基礎に理事会があります。この5月26日の評議員会で加盟が承認されましたので、6月5日の常任理事会で有賀裕二会員と西山賢一会員を評議員として送ることを決定しました。

## 事務局移転のお知らせ

本学会の事務は創立以来京都大学の吉田・八木両研究室で担当して来ましたが、学会の成長とともにより恒常的な事務サポート体制の整備が課題となっていました。このほど早急にこの問題を解決する必要が生じたので、常任理事会の協議にもとづき国際文献印刷社と事務委託の契約を結ぶことにしました。選定理由は同社が、学術印刷と学会サービスの両面において優れた実績と技術・ノウハウを有していたからです。(同社ホームページ <http://www.bunken.co.jp> をごらんください。)同社は欧文学術印刷や電子ジャーナルの技術もありますので現在準備中の英文誌の印刷・販売も依頼する予定です。会費の請求やニューズレター等の配送だけでなく、学会への電話・郵便物の取次ぎも行っていただきます。



## 進化経済学会第II期第8回・第III期第1回合同理事会

1. 進化経済学会第II期第8回理事会は、2003年3月29日の11時半から13時にかけて、専修大学生田キャンパス第9号館5階で開催された。出席者は、16理事、1監査委員、会長、副会長であり、また議長委任が11理事からあった。
2. はじめに、瀬地山会長から、この理事会を昨年選挙された第III期役員による新理事会と合同でおこなうことが提案され、了承された。新理事会としては、出席者は、20理事、1監査委員、会長、副会長、また、議長委任が7理事からあった。
3. 入会申込と退会の状況の説明が、八木常任理事からあった。前理事会以降の退会者は6名であるが、来年度に入ると、会費滞納者による資格喪失（会則第7条）の適用者が出てくる可能性がある。入会申込者は、事務局が用意した資料は12名分であったが、理事会席上でさらに4名の入会申込が追加され、合わせて16名を入会資格のあるものとした。会員総会で入会承認がされれば、会員数は552名となる。（大会2日目にも入会申込があったが、これは次回理事会の審議事項とした。）
4. 平成13年度決算（前理事会に報告済み）とともに、本年2月末の会計状況の報告が、吉田和男常任理事からあった。また、吉田常任理事から、平成15年度予算案が示され承認された。（理事会開催前に入会申込によって会費を算定していたので、予算総額をその場で調整しようとしたが、翌日の総会ではこの調整は断念し、549会員として算定した予算案を提出して承認を受けた。）
5. 新理事会の専管議題である第III期の理事会選出役員については、塩沢新会長が提案をおこなった。有賀、磯谷、依田、植村、岡村、清水、瀬地山、西部、吉田和男、吉田雅明の10理事を常任理事とする提案がおこなわれ承認された。また、大会担当の事務局理事として福井県立大学の服部茂幸会員を1年任期で任命することが提案され、了承された。事務局理事として他1名の任命を考慮中であるとも説明された。また、監査委員として、富森現監査委員の留任、またもう1名の監査委員として谷口和久会員の就任をお願いしたいと諮られ、本人が受け入れればということで承認された。（受諾）
6. また、来年度創刊予定の英文誌編集委員9名（有賀、依田、植村、高安、出口、西部、八木、吉田和男、吉田雅明）の提案がされ、了承された。さらに、総数3-40名からなるEditorial Boardについても提案がされたが、これは5月末頃までに勧誘し発足させる。
7. 第7回大会の進行状況が宮本常任理事から説明された。また、第8回大会を福井県立大学でおこなうこととした。同大学の服部茂幸会員の説明にもとづき、大会を2004年3月27-28日、オータムコンファレンスを11月1日（土）に地域公共政策学会と共催で「市場と規制の共進化」をテーマとして開催する予定とした。
8. 八木編集委員から、ゲネシス進化経済学の第2冊が『社会経済体制の移行と進化』として、本年1月に同委員の責任編集で刊行されたこと、また第3集の編集は瀬地山現会長



を中心に編集がおこなわれていることが報告された。

9. 引き続き、英文誌の創刊計画が説明された。A5版100ページの英文誌 *Evolutionary and Institutional Economics Review* を2004年から、年2回刊行したい。経費と技術の双方から、出版社あるいは印刷所の選定にあたっているが、何とか学会予算で維持可能な見とおしが立った(150-180万円程度)。雑誌の性格を述べる Aims & Scope が配布され、編集体制が承認され、Editorial Board の構成の方針についても了承された。

10. 九州地方部会、制度の政治経済学部会、現代日本の経済制度研究部会、イノベーション研究会、非線形問題研究部会の活動報告があった。

11. 塩沢新会長から、英文誌だけでなく、商業ベースでの進化経済学の教科書あるいはハンドブックのような出版活動を考える必要があるという提言があった。

### 進化経済学会第7回会員総会

1. 進化経済学会第7回会員総会は、2003年3月30日の12時半から13時20分にかけて、専修大学生田キャンパス第9号館2階で開催された。

2. 議長として、清水耕一会員が選出された。

3. 会員状況の説明が、八木常任理事からあった。今年度は、意思表示による自発退会以外に会則第7条適用によす資格喪失者があり、第7回理事会で承認されている。同理事会での入会資格承認者は11名、第8回理事会での入会資格申請者は16名あり、計27名の入会が一括して承認された。新年度当初の会員数は、552会員(一般465名、院生86名、賛助会員1団体)となるが、会費滞納者による資格喪失(会則第7条)の適用者が再度出てくる可能性がある。

4. 会計状況報告も、八木常任理事がおこなった。2監査委員の署名を付した平成13年度決算(ニューズレター前号参照)が配布され、承認された。また、平成15年度予算案(理事会開催直前の会員数見込みに基づいて算定した予算)が示され承認された。

5. 第III期役員選挙の報告が、磯谷選挙管理委員長からおこなわれ承認された。

6. 塩沢新会長から、第III期第1回理事会で決定した新役員体制についての説明があった。新理事の互選した常任理事10名、大会担当で任命される1事務局理事(任期1年)、委嘱する2監査委員が紹介され、総会の承認を受けた。また、英文誌の編集委員と Editorial Board についても、紹介がおこなわれた。 <第III期役員表を参照>

7. 年次大会の開催について：第7回大会の進行状況が宮本常任理事から説明された。また、福井県立大学でおこなわれる第8回大会について、同大学の岡会員から説明された。大会は、2004年3月27-28日、オータムコンファレンスは2003年の11月1日(土)に地域公共政策学会と共催で「市場と規制の共進化」をテーマとして開催する予定。

8. 八木編集委員から、ゲネシス進化経済学の第2冊が『社会経済体制の移行と進化』として、本年1月に同委員の責任編集で刊行されたこと、また第3集の編集は瀬地山現会長



を中心に編集がおこなわれていることが報告された。

9. 引き続き、英文誌の創刊計画が説明された。A5版100ページの英文誌 *Evolutionary and Institutional Economics Review* を2004年から年2回刊行する。経費と技術の双方から、出版社あるいは印刷所の選定にあっているが、学会予算で維持可能な見とおし(150-180万円程度)である。雑誌の性格を述べる Aims & Scope が配布され、編集体制が説明された。

10. 部会の活動報告は、ニュースレター(本号)に譲ることとして、省略した。

11. その他として、塩沢新会長から、英文誌を成功させるとともに、商業出版ベースの進化経済学会の教科書、ハンドブックの編集刊行によって、進化経済学の内容面での理解を深めるとともに普及をはかる必要があるという提言がされた。

12. 最後に瀬地山会長から会長任期を終えるにあたっての挨拶がなされた。

第III期進化経済学会役員

会長：塩沢由典 副会長：八木紀一郎

理事(\*は常任理事)：\*有賀裕二、浅田統一郎、出口弘、海老塚明、江頭進、平野泰朗、平山朝治、弘岡正明、\*依田高典、\*磯谷明德、金子勝、三土修平、宮本光晴、室田武、長尾伸一、\*西部忠、西山賢一、\*岡村東洋光、酒井泰弘、\*瀬地山敏、\*清水耕一、鈴木興太郎、高安秀樹、\*植村博恭、宇仁宏幸、若森章孝、山田鋭夫、山脇直司、\*吉田和男、\*吉田雅明、\*服部茂幸(大会担当事務局理事、福井県大での開催実現まで)

監査委員： 富森虔児、谷口和久

英文誌編集委員：有賀裕二、依田高典、植村博恭、高安秀樹、出口弘、西部忠、八木紀一郎(チーフ)、吉田和男、吉田雅明

進化経済学会平成15年度予算

(平成15年4月1日～平成16年3月31日)

(単位：円)

収入予算		支出予算	
概要	15年度予算額	概要	15年度予算額
前年度繰越費	2,000,000	大会開催費	1,500,000
会費	5,085,000	大 事 務 費	300,000
(内 記)		交 通 費	600,000
正 会 員	4,650,000	部 会 等 補 助 費	250,000
(465名)		人 員 費	450,000
院 生 会 員	415,000	会 議 費	
(83名)		(理事会費等)	200,000
賛助団体会員	50,000	通 信 費	450,000
(1団体)		出 版 費	1,500,000
		印 刷 費	200,000
		謝 金	200,000
		送 金 手 数 料	40,000
		小 計	5,690,000
		平成16年度への繰越金	1,425,000
総 計	7,115,000	総 計	7,115,000



***Evolutionary and Institutional Economics Review (EIER)***  
***(Aims and Scope)***

The *Review* (EIER) is issued by the Japan Association for Evolutionary Economics to provide an international forum for new theoretical and empirical approaches to evolutionary and institutional economics. The *Review*, free from the view of equilibrium economics and methodological individualism, should face the diversity of human behavior and dynamic transformation of institutions. In the *Review*, 'economics' is used in its broadest sense. It covers from the classic research in economic history, economic thought, economic theory, and management science to emerging research fields such as economic sociology, bio-economics, evolutionary game theory, agent-based modeling, complex systems study, econo-physics, experimental economics, and so on. The *Review* believes that a truly interdisciplinary discussion is needed to propel the investigation in the dynamic process of socio-economical change where institutions as emergent outcomes of human actions do matter. Though the *Review* is an official journal of the Japan Association for Evolutionary Economics, it welcomes non-members' contributions from all parts of the world. All the contributions are refereed under strict scientific criterion, though the *Review* does not apply monolithic formalistic measure to them. Evolution goes hand in hand with diversities; this is also the spirit of the *Review*.

The focus areas of the *Review* (not exhaustive):

- Foundations of institutional and evolutionary economics
- Criticism of mainstream views in the social sciences
- Knowledge and learning in socio-economic life
- Development and innovation of technologies
- Transformation of industrial organizations and economic systems
- Experimental studies in economics
- Agent-based modeling of socio-economic systems
- Evolution of the governance structure of firms and other organizations
- Comparison of dynamically changing institutions of the world
- Policy proposals in the transformational process of economic life

**Managing Editors:** Chief Editor, Kiichiro Yagi (Kyoto University), Yuji Aruka (Chuo University), Hiroshi Deguchi (Tokyo Institute of Technology), Takanori Ida (Kyoto University), Makoto Nishibe (Hokkaido University), Hideki Takayasu (Sony Computer



Laboratory), Hiroyasu Uemura (Yokohama National University), Kazuo Yoshida (Kyoto University), Masaaki Yoshida (Senshu University)

**Editorial Board** (as of June 6, 2003): Yoshinori Shiozawa, Satoshi Sechiyama, Takahiro Fujimoto, Yonosuke Hara, Masaaki Hirooka, Mitsugu Matsushita, Takashi Negishi, Kenichi Nishiyama, Ikujiro Nonaka, Yasuhiro Sakai, Yuichi Shionoya, Toshio Yamada, Robert Axelrod, Robert Boyer, Kathleen Carley, Benjamin Coriat, Giovanni Dosi, Geoffrey Hodgson, Sheng Hong, Keun Lee, Chaisung Lim, Alan Kirman, Vladimier Mayevsky, John S. Metcalfe, Nathan Rosenberg, Bertram Schefold, Ulrich Witt

### BRIEF GUIDE FOR CONTRIBUTORS

(A detailed instruction is supplied from September 2003 on the homepage of the Association.)

From November 1, 2003 editors of the EIER receive contributions in the broad direction as shown in the Aims & Scope. Contributions to the EIER are classified in 1) ARTICLES that deal with substantial topics in details with original insights and full knowledge of the existing researches (ca 2,000-6,000 words) and 2) NOTES that describe new ideas or findings briefly (under 3,000 words). Important materials are included in ARTICLES, while news and comments in NOTES. The copyright of the published papers in the EIER belongs in principle to the Japan Association for Evolutionary Economics. Double contributions should be avoided.

The manuscript should be written in double-spaced on A4-size, with a title page that contains title, author's name in full, affiliations, postal and e-mail address, summary under 200 words, 5 key words, and max 3 JEL-numbers. Papers should preferably be submitted online as a pdf or MS-word file.

**Address of the EIER:** Managing Editors of the EIER, International Academic Printing Co., Ltd. (KOKUSAI BUNKEN INSATSUSHA) 3-8-8, Takadanobaba, Shinjuku-ku, Tokyo, 169-0075 JAPAN. E: evoeco-ed@bunken.co.jp T:(+81)(0)3-5389-6492

Chief editor's office: Kiichiro Yagi, Graduate School of Economics, Kyoto University, Yoshida-honmachi, Sakyo-ku, Kyoto 606-8501, JAPAN. E:yagi@econ.Kyoto-u.ac.jp T:(+81)(0)75-753-3427

(刊行趣旨の翻訳)

### 進化的制度経済学レビュー

本誌 (EIER) は、進化的および制度的経済学への新しい理論的および経験的アプローチのための国際的フォーラムを提供するために、進化経済学会によって刊行される。本誌は、均衡経済学や方法論的個人主義の制約から脱して、人間行動の多様性と制度の動態的变化



をとりあげる。本誌において、「経済学」は、その最も広い意味で解されている。それは、経済史、経済思想、経済理論、および経営学という古典的領域から、経済社会学、生物経済学、進化ゲーム理論、エージェントベース・モデリング、複雑系、経済物理学、実験経済学等の新しく出現した領域までを含んでいる。本誌は、真の意味での学際的討議が社会経済的変化の動態的過程の解明を前進させるために必要とされていると考える。この変動過程では、人間の行動の創発的結果である制度が重要な意味をもつのである。

本誌は進化経済学会の機関誌であるが、全世界からの非会員の投稿も受け付ける。すべての投稿は厳密に科学的な基準にしたがって審査を受けるが、それは、形式的で一元的な基準ではない。進化は多様性と手を携えて進む：これはまた本誌の精神である。

本誌が焦点をあてるのは

- \* 制度的経済学および進化的経済学の基礎づけ
  - \* 社会科学における支配的潮流への批判
  - \* 社会・経済生活における知識と学習
  - \* 技術の発展とイノベーション
  - \* 産業組織と経済体制の変貌
  - \* 経済学における実験的研究
  - \* 社会経済システムのエージェントベース・モデリング
  - \* 企業や他の組織におけるガバナンス構造の進化
  - \* 動的に変化しつつある制度の比較
  - \* 経済生活の形態変化のなかでの政策提言
- などである。

#### 論文（英語）受付開始：2003年11月1日

（詳細な案内は、作成次第学会ホームページに掲載します）

ARTICLES：刊行趣旨に合致したトピックに関する独創性が高く従来の研究との位置づけも明確に考証された完成度の高い論文。マテリアルも含む。（2,000 から 6,000words 程度）

NOTES：簡潔に新しいアイデアや発見がわかるように書かれた論文。ニュースやコメントも含む。（最大 3,000words）

\* 原稿は A4 サイズの用紙にダブルスペースでご作成ください。タイトルページに、タイトル、著者名、所属、郵送および電子メールのアドレス、200words 以内のサマリー、キーワード 5 点、JEL 分類（3 以内）を付してください。

\* EIER では電子投稿システムを採用する予定です。詳細は追って受付開始時に学会 HP・レター等で広くアナウンスします。（問い合わせ先：〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 3-8-8 国際文献印刷社内進化経済学会編集委員会；T:03-5389-6492；E:evoeco-ed@bunken.co.jp）。

\* 二重投稿はお断りします。掲載論文の著作権は、原則として進化経済学会に帰属します。



## 2002年度部会活動(会計報告は省略)

### 非線形問題研究部会

(代表:有賀裕二、幹事:浅田統一郎・吉田雅明・小田宗兵衛)

【活動は従来の電子メイリングリスト evoecojapan のほかに、有賀のホームページ (<http://c-faculty.chuo-u.ac.jp/~aruka/activities.html>) で案内しています。事前の報告者のアブストラクトや事後のセミナー要約などもこのページに掲載しています。】

### 1. 研究会の活動

#### A. 研究会セミナーの開催

##### ●進化経済学会非線形問題研究部会

2002年度 No.1

evoecojapan651 で通知配信、evoecojapan660 で報告要旨を配信済み。

中央大学企業研究所定例研究会主催

進化経済学会非線形問題研究部会共催

日時 2002年4月26日(金) 15:00-17:00

場所 中央大学多摩キャンパス 2号館 4階 研究所会議室

<http://www.chuo-u.ac.jp/chuo-u/access/>

[accessT.html](http://www.chuo-u.ac.jp/chuo-u/access/accessT.html)

講師 富森虔児氏(桜美林大学国際学部教授・北海道大学名誉教授)

論題 「自己組織化と創発の経済学—日本的システムに未来はあるか—」

##### ●進化経済学会非線形問題研究部会

2002年度 No.2

evoecojapan709 で通知配信、evoecojapan714

で報告要旨を配信済み。

中央大学企業研究所公開チーム研究会会主

催/進化経済学会非線形問題研究部会共催

日時 2002年10月12日(土) 13:30-15:30

場所 中央大学市ヶ谷キャンパス 2605室

<http://www.chuo-u.ac.jp/chuo-u/access/>

[campus.html](http://www.chuo-u.ac.jp/chuo-u/access/campus.html)

講師 出口弘氏(東京工業大学総合理工学研究科教授)

論題 「社会学習行動学と経済学の学習論的拡張」

##### ●進化経済学会非線形問題研究部会

2002年度 No.3

evoecojapan712 で通知配信。

科研費研究補助金「社会ゲームの学融合的展開」研究集会共催/進化経済学会非線形問題研究部会共催

日時 2002年12月14日(土) 15:30-17:00

場所 中央大学駿河台記念館 465室

<http://www.chuo-u.ac.jp/chuo-u/access/>

[campus.html](http://www.chuo-u.ac.jp/chuo-u/access/campus.html)

講師 小野崎保氏(旭川大学経済学部教授)

論題 「非線形経済動学の可能性」

##### ●進化経済学会非線形問題研究部会

2002年度 No.4

evoecojapan737,745 で通知配信

中央大学企業研究所定例研究会会主催

進化経済学会非線形問題研究部会共催

日時 2003年3月13日(木) 15:00-17:00

場所 中央大学多摩キャンパス 2号館 4階

会議室



<http://www.chuo-u.ac.jp/chuo-u/access/campus.html>

講師 高橋一郎氏 (創価大学経済学部教授)  
 論題 「バブルと不良債権—マルチエージェントシミュレーションによるアプローチ」

●進化経済学会非線形問題研究部会  
 2002年度 No.5

evoecojapan746 で通知配信。

進化経済学会非線形問題研究部会主催

日時 2003年3月28日(金) 15:00-17:00

場所 専修大学神田校舎8C会議室

<http://www.acc.senshu-u.ac.jp/koho/campus/index06a.html>

講師 Professor Thomas Lux (University of Kiel); 3月31日までICU滞在

[wl.uni-kiel.de/vwlinstitute/gwrp/index1.htm](http://wl.uni-kiel.de/vwlinstitute/gwrp/index1.htm)

論題 Multi-Agent Models of Financial Markets and the Stylized Facts

Lux 教授は 2003年5月キール開催の WEHIA2003 組織委員長である。WEHIA は Workshop for Economics with Heterogeneous Interacting Agents の略記であり、ヨーロッパで開催され第8回を迎える。

(<http://www.bwl.uni-kiel.de/vwlinstitute/gwrp/wehia/index.htm>) なお、第9回 WEHIA 2004 は 2004年5月に京都開催予定。

B. 第6回複雑系国際会議 CS02 の開催  
 evoecojapan652、evoecojapan695 で配信。会議報告は、進化経済学会ニュースレター No.13 Nov.2002 9-12 頁に掲載。  
 evoecojapan710 で会議写真 URL を配信。

<http://c-faculty.chuo-u.ac.jp/~aruka/activitites.html>

第6回複雑系国際会議 CS02 (The 6th International Conference on Complex Systems) はもともとオーストラリアから出発した会議である。David Green (オーストラリア, Monash 大学) とともに、非線形問題研究部会のメンバーである生天目章 (防衛大学)、有賀裕二 (中央大学) が共同議長として、2002年9月9-11日に中央大学多摩キャンパスで開催し、多くの部会メンバーが参加した。また、進化経済学会・塩沢由典副会長を国内ゲストとし迎えた。  
<http://c-faculty.chuo-u.ac.jp/~aruka/activitites.html>

C U-Mart 研究準備作業)

非線形問題研究部会では、U-Mart 研究促進に協力して、U-Mart 研究準備を進めている。有賀研究室サーバの準備として下記の演習指導を依頼した。

日時 2002年5月15日(水) 13:20-16:30

場所 中央大学5号館5602室

有賀研究室にたいする演習指導 小山友介氏 (東京工業大学総合理工学研究科助手)

ちなみに、昨年度、U-Mart 研究会教育用ユニット公開デモンストレーション (2001年6月27日(水) 13:00-14:50 中央大学多摩キャンパス2号館1階マルチメディア教室2109; evoecolist575 で通知配信) で、U-mart の研究促進に関与している。

(有賀裕二)

### 九州部会

(運営委員: 岡村東洋光、水口雅夫、磯谷明德)



①第23回研究会

2002年9月7日午後1時より  
九州産業大学経済学部小会議室（1号館9階）

報告者と論題；岡村東洋光（九州産業大学）  
「ラウントリーとコミュニティ」  
久間清俊（熊本県立大）「グローバル経済と地域社会」

②第24回研究会

2002年10月12日午後1時より  
九州産業大学経済学部小会議室  
報告者と論題；古河幹夫（長崎県立大）「ギデنزの『第三の道』理論」

姫野順一（長崎大）「新自由主義と社会進化論」

③第25回研究会

2002年11月4日午後1時より  
九州産業大学経済学部小会議室  
報告者と論題；鈴木典夫（福岡教育大）「教育における公共性と新自由主義」

秋田清（別府大）「地域通貨と地域の物語」  
斎藤實男（九州産業大）「グリーンコミュニティ」

④第26回研究会

2003年3月1日午後1時より  
場所；福岡大学講義棟A棟2階・A201教室（+談話室A202教室）

報告者と論題；古河幹夫（長崎県立大）「ギデنزの『第三の道』理論」  
河又貴洋（長崎シーボルト大）「情報通信技術の発達と制度～モバイル通信技術を中心に～」

出口弘（東京工業大）「エージェントベースモデリングと経済学のリサーチプログラム」

塩沢由典（伏見市立大）「『マルクスの遺産』について」

（合評会）討論者；磯谷明德（九州大）

⑤久間清俊・姫野順一・岡村東洋光編著『社会進化と地域の再生』（仮）ミネルヴァ書房

2003年4月刊行予定

**現代日本の経済制度研究部会**

（代表：山田鋭夫、事務局：宇仁宏幸、平野泰朗）

第13回研究会

2002年6月16日（日）

場所：京大会館103号室

遠山弘徳（静岡大）「平等主義経済モデルの可能性」

宇仁宏幸（京都大）

「日本経済の低成長の原因－産業と雇用の構造変化の国際比較による分析－」

第14回研究会

2002年10月5日（土）

場所：京大会館102号室

藤田菜々子（名古屋大院）「ミュルダールと累積的因果関係論」

須田文明（農林水産省農林水産政策研究所）

「レギュレーション・コンヴェンション・近接性：

－フランスにおける新制度派農業経済学の展開－」

都留康『労使関係のノンユニオン化』の書評

コメント 野田知彦（桃山学院大学経済学部）

リブライ 都留康（一橋大）



**「制度の政治経済学」部会**

(たいてい「現代ヨーロッパ研究会」と合同で、河合塾京都校で開催しています。)

代表：八木紀一郎、幹事：清水耕一、  
長尾伸一

<http://www.e.okayama-u.ac.jp/%7shimizu/pecois.html>)

(1) 2002年5月18日(土) 14-17時 河合塾京都校(京都駅から地下鉄、烏丸御池駅下車、三条通りを東へ徒歩三分)

馬場真一郎氏(京都大学・院)「アメリカの産業政策と法システム」

江口友朗氏(名古屋大学・院)「『制度』認識と『制度』の理論的な役割：諸学派における『制度』と『個人』の関係から」

住沢博紀氏(日本女子大学)「研究プログラム・国境を越える地域ガバナンスについて」

(2) 2002年10月12日(土)14-17時 同志社大学今出川校舎扶桑館2階会議室

田中宏氏(立命館大学)「東欧におけるグローバル化と地域変容」

安間匡明氏(国際協力銀行)「体制移行諸国と日本のビジネス：公的輸出金融に携わって考えたこと」

(3) 2002年12月14日(土) 14-17時 河合塾京都校

山本いずみ氏(徳島文理大学)「トルコのEU加盟問題」

小沢修司氏(京都府立大学)「ベーシック・インカム構想と社会政策の新たな可能性」

**イノベーション研究会**

(幹事：弘岡正明、瀬地山敏、事務局：富

澤拓志、徳丸宜穂、ホームページ)

第6回研究会(2002年4月20日)

中岡哲郎(大阪経済大学経営情報学部)  
「戦後日本の技術形成」

第7回研究会(2002年6月8日)

1. 明石芳彦(大阪市立大学経済研究所)  
「漸進的改良型イノベーションの背景」

2. 瀬地山敏(関西大学社会学部)  
「シユンペーター的企業者と標準化の意味」

第8回研究会(2002年7月6日)

1. 弘岡正明(流通科学大学構報学部)  
「産業の国際競争力～技術力と為替レート」

2. 徳丸宜穂(日本学術振興会特別研究員/京都大学)

「コード化・モジュール化と技術開発分業の調整」

第9回研究会(2002年9月21日)

1. 入江信一郎(京都工芸繊維大学)  
「技術の意味付けの相補的再構成過程としてのイノベーション」

2. 齊藤了文(関西大学社会学部)  
「テクノロジーの知識と工学倫理」

策10回研究会(2002年11月16日)

1. 富澤拓志(産業技術総合研究所)  
「設計製造過程における技能の役割」

2. 松永桂子(学振特別研究員/大阪市大)  
「準組織アーキテクチャとしての産業集積」

第11回研究会(2003年1月25日)

南部鶴彦(学習院大学経済学部)

「ネットワーク型産業における技術革新と競争の変質」



\*\*\*\*\*

## 進化経済学 開講の辞

吉田和男

京都大学経済学部では学部授業として瀬地山敏元教授（現関西大学教授）が進化経済学を講義していた。退官後、出口元助教授（現東京工業大学）がシミュレーションを中心に進化経済学を講義していたが、転出後、しばらく講義がとぎれていた。本年の講義として進化経済学を前期2単位で講義を始めることとした。その第一回での講義準備で話したことをまとめたので、ご批判を賜れば幸いである。

「進化」という言葉の意味から説明する。ダーウィンの「進化論」は19世紀の科学主義の中で、人類の起源という神秘的な課題に関して「科学的に明解な」テーゼを提供したのであった。これが大きく広まったのは言うまでもない。発展する。システム人間は猿から進化したといった場合、人間が猿より高度であるという意味合いを含んでいよう。また、人類も野蛮から文明に進化するといった白人優越主義の発想もあったのであろう。

日本語で進化という訳語を与えたときの語感、価値の向上を示すようなものであろう。漢字の語源からすると、「進」は、旁はシンという音を示し、靴を履いて外に出るという意味である。しんにゆう扁は道を歩いて歩行するという意味の「疋（ちやく）」であり、靴を履いて道を進むという意味となる。前に進むとか、向上するといった意味になる。一方、「化」の偏は「人」を意味し、音を示して転倒した人の意味の「匕（か）」が旁になっている。従って、「化」は人が別人に変わるという意味になる。この漢字からすれば、人が前に向かって変わるという意味にとらえられることになる。

同様の言葉に「進歩」という言葉がある。これも前向きに歩くという意味であるが、「進歩主義」や「進歩史観」と言った言葉に使われるように18世紀的ヨーロッパ啓蒙思想の意味合いが強い。

一方、英語で"evolution"とは、オックスフォード辞典によると"any process of formation or growth, development"であり、形態形成、成長、発展の過程を意味する言葉になっている。先に見たように前に進むという意味の進化という言葉に当てるのは若干のずれがあるように感じる。一方、似たような言葉に"evolute"という言葉があり、これは"the locus of the centers of curvature"または"the locus of the envelope of normals to"とされている。これは幾何学的な用語で曲線の中心の軌跡または法線の包絡線という意味である。あまり前とか後ろと言った概念ではなく、時系列的な軌跡と見るのがこの意味であろう。一方、対立的な言葉としての"involute"とは「内巻き」の意味であり、ここからの"evolute"の語感「外巻き」ということになる。

さらに"evolve"とは"develop gradually"であり、"gradually"が重要な意味を持つ。すなわち、"evolution"は、"revolution"のようなラディカルで急進的なものではないと理解されている。他方、対立的な用語としては"involve"という言葉があるが、これは「巻き込む」という言葉であり、これに対立する言葉と見れば、「外に広がる」という意味になる



う。

似たような言葉に"revolution"と言う言葉があり、一般に「革命」という言葉が当てられている。これは"a complete and forcible overthrow of government or political system"といった政府や政治システムの完全で強制的な転覆や、"a radical pervasive change in society and the social structure"社会と社会構造根本的で広がりのある変化、"one made suddenly and often accompanied by violence"突然で時には暴力を伴って起こるものといった意味であり、先に述べた"gradually"なものとは違う。これはいうまでもなく、"revolve"というように、回転というイメージがある。

また、進化と同様な意味として「進歩」の訳語が与えられている"progress"は"a movement toward a goal or a future or higher stage"であり、目標、未来、より高いステージに向かっただけの動きと言う意味である。日本語の「進化」はこのprogressの意味合いに近いように見える。しかし、ここから見ても分かるように、"evolution"は何か特定の目標があるわけではなく、より高い水準へ移行することとは限らない。

これらと区別して、"evolution"の訳語として、「転展」と言った方が望ましいかもしれない。進化は形態形成や発展に関わるものと理解し、しかもゆっくりした変化というイメージであろう。しかも、それは外に広がるような時系列的な軌跡と言うことが似合っているように思える。この意味でも「転展」が訳語としては望ましそうであるが、すでに「進化」は定着した言葉であり、言葉はそのままにしておいても逆に本来の意味でとらえることが重要になろう。

「進化論」とは、一般にダーウィン(Charles R. Darwin)が1859年に出版した『種の起源』、正確には『自然淘汰による種の起源、または生存競争に勝ち残る種の保存について』において主張されたものであり、ここからはじまる生物の進化の議論である。ここでダーウィンは突然変異、生存競争、自然淘汰等をキーワードに、地球上で多様な生物が創成され滅びていった事実に対する統一的な見方を示すパラダイムを提供することになった。

もともと、人間にとって「人類はどこから来たのか」という問いは極めて重要なものである。人類の発生のあり方は人々の生き方、倫理にも直接影響するものである。多くの神話にはこの人類の誕生に関する説明がなされている。そして、多くの宗教の基礎をなすものとなっている。言うまでもなく、西洋においてはキリスト教の教義である『聖書(旧約聖書)』に、創世記が記され、神が6日間かけて天地創造から様々な生命体を生み出したことになる。その最後に作ったのがアダムとイブ、すなわち、人間であった。そして、7日目に休息を取ったというのが創世記のストーリーであった。

しかし、化石を見れば今日、見られない生物が地上に存在し、これが時代の流れとともに大きく変化しているのも明白なる事実である。この歴史的な大きな「種」の変動に対して、仮説を提示したのがダーウィンの進化論であった。

ダーウィンの議論は要約すれば次のようなものになる。生物は一般に多数の子供を作る、数が多いために「種内」「種間」で厳しい生存競争が起こる。彼らの中には変異を伴った



ものがいて、その変異が生存競争に有利に働くときがある。その結果、有利な変異を起こした変種は生き残る可能性がごくわずか高まる。このような過程が繰り返されてその変種がその種の中で多数派になる。これは新しい種の誕生となる。

このダーウィンの進化論は、マルサスが1798年に出版した『人口論』から強い影響を受けている。マルサスは、人口は幾何的級数的に増加するが、食料は算術的級数的にしか増加しない。従って、マルサスは経済学を憂鬱の学問としている。そこから、保守主義的な見解が生まれることになる。有名な穀物論争では穀物条例を支持して地主の利益の保護を主張することになる。このマルサスの人口の増加幾何級数的であることから生まれる生存競争と淘汰という考えを生物一般に拡大したのがダーウィンの進化論であった。

進化経済学は必ずしもダーウィニズムの論理を引き継ぐものではないが、このような発想は経済学に新しい展望を開くものとして期待されるところとなっている。現実にも多くの進化経済学の課題があり、学生が興味を持つようになることに期待している。

\*\*\*\*\*

### Call for Papers

#### 第8回進化経済学会福井大会報告募集

開催日時：2003年3月28日(土)・29日(日)

開催場所：福井県立大学福井キャンパス

(福井県吉田郡松岡町兼定島4-1-1)

## テーマ：市場と政府の共進化

今回の大会は、市場と政府の共進化というテーマを掲げました。社会主義の崩壊以降、一方で市場経済の卓越性が主張されています。しかし、その一方で環境問題は21世紀における最大の社会的問題となることが予想されます。この問題に対しては規制当局としての政府の役割が重要になることは言うまでもありません。また、情報・通信などの世界では市場が導入されると逆に参入を促進するために規制当局の役割がますます大きくなるという現象も生じています。このような状況の中で改めて市場と政府の関係を考えることはますます重要になると思われます、もちろんこのことは応募論文のテーマを制約するものではありません。

口頭発表セッションの区分と名称は、公募受付終了後に確定しますが、応募のご参考までに以下のテーマを挙げさせていただきます。

1. 市場と政府の共進化 (オータム・コンファレンスからの継続)
2. 地域経済を巡る諸問題
3. 進化の思想



4. 制度進化への経済史的アプローチ
5. 制度設計と公共政策
6. 技術革新を巡る諸問題
7. 金融システムへの進化経済学的アプローチ
8. 貨幣論・コミュニケーション論のフロンティア
9. 行動・知識・市場
10. 信頼・規範・慣習の形成論
11. U-Mart
12. 実験経済学
13. 進化ゲームとシミュレーション
14. 進化と生物学
15. マルチエージェントベースのアプローチ
16. 自由論題
17. チュートリアル・セッション

**応募要領**：報告希望者は、1.希望するセッション区分番号と区分名、2.アブストラクト（A4用紙2枚程度、キーワードを3ないし5をつけてください）を添えて、9月20日（土）までに、第8回進化経済学会福井（福井県立大）大会運営委員会宛にお送りください。また、討論者について希望があれば（2名以内）、その旨明記してください。採否の決定は10月18日（土）までに行い通知します。なお現在、非会員であっても学会加入の意思があれば応募を受理いたします。採択された方は来年1月11日（土）までに、『進化経済学論集8』に掲載するA4版10ページ以内の報告原稿（カメラレディのプリントアウトとwordもしくはテキスト形式で保存したフロッピーディスク）をお送りいただきます。

**ポスターセッション**：以上に加えてポスターセッションも行われます。ポスターセッションの応募は10月18日（土）までをお願いします。採否は10月中に行います。

\*郵送の場合：〒910-1195 福井県吉田郡松岡町兼定島4-1-1 福井県立大学経済学部 服部研究室 進化経済学会福井（福井県立大）大会 運営委員会 宛  
電話：0776-61-6000

\*電子メールの場合（推奨）：hattori@fpu.ac.jp  
（メールで送信いただいた場合、受信の旨、返信いたします。郵送の場合も、メールアドレスを明記していただければ、メールにて返信します。10月11日になっても返信のない場合は、お手数ですが確認のメールをお送りください。）

第8回進化経済学会福井（福井県立大）大会運営委員会  
委員長・岡敏弘（福井県立大学経済・経営学研究科：oka@fpu.ac.jp）  
事務局長・服部茂幸（福井県立大学経済学部：hattori@fpu.ac.jp）



## 進化経済学会福井大会 オータム・コンファレンス開催のお知らせ

「市場と政府の共進化」というテーマで、本年度のオータム・コンファレンスを福井県立大学で開催いたします。まだパネラーは交渉中ですが、シンポジウム形式で行う予定です。このたびのコンファレンスが市場と政府の関係を改めて見直すきっかけになればと思います。会場の皆様との応答を含めて活発に議論が展開されることを期待します。

開催日時： 11月1日（土）午後1時半から5時（受付開始 午後1時）

会場： 福井県立大学福井キャンパス 交流センター1階

午後5時半から懇親会

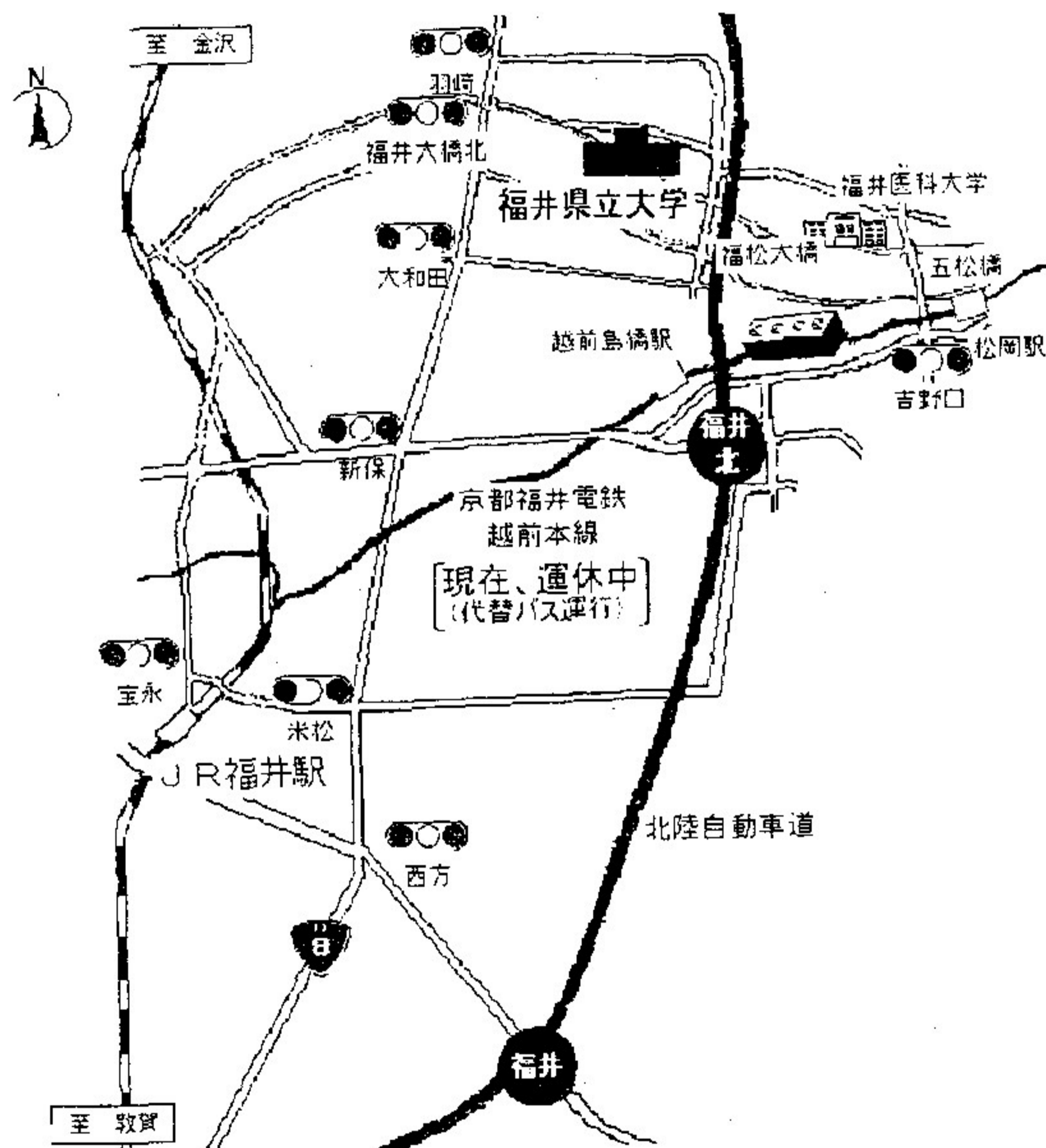
### ●福井県立大学福井キャンパス

\* 福井駅西口より「福井医大行き」バス（11番乗り場）約30分→福井県立大学下車

\* 福井駅東口より「越前鉄道」→松岡駅下車→タクシーかバス約10分

えちぜん鉄道はオータム・コンファレンスの時には運行している予定ですが、現在のところは運行していません。

\* 車 北陸道福井北インター下車→右に曲がる→以下案内板に従う  
福井県立大学は駐車場が完備していますので、車でくると便利です。





**学会関連出版物**

**ゲネシス進化経済学2 進化経済学会・八木紀一郎編『社会経済体制の移行と進化』**

シュプリンガー・フェアラク東京 2003年1月刊 2500円(会員に配布されました)

イントロダクション

第1部 移行経済の考察視角

第1章 体制移行における進化的視点 八木紀一郎

第2章 移行過程への進化的制度的接近 エリック・マーニャン

第3章 進化経済学と現代ロシアの諸問題 ウラディミール・マエフスキー

第4章 ポーランド・ドイツ間貿易とポーランドの経済成長 富森虔児

第5章 移行経済学的一般理論をめざして 盛洪

第11部 歴史としての進化と移行

第6章 資本主義を共産主義のやりかたでつくる：東欧の欠陥だらけの移行

カジミール・ポズナンスキ

第7章 ドイツ再統一過程における私有化と事業創造の進化

ハンス・ペーター・ブルンナー

第8章 インドの経済成長体制とその進化 ジョン・アダムス

付録 国際シンポジウム：プログラムと総括報告

**ゲネシス進化経済学1 進化経済学会・塩沢由典編『方法としての進化』**

シュプリンガー・フェアラク東京、2000年 2500円

**進化経済学会編『進化経済学とは何か』**

有斐閣 1998年 2400円

【以下は学会事務局でお求めできます】

Y. Aruka (Japan Association for Evolutionary Economics) ed.,

*Evolutionary Controversies in Economics: A New Transdisciplinary Approach.*

Springer Verlag Tokyo, 2001. (学会事務局での購入送料込み 5000円)

*Nonlinear Dynamics, Psychology, and Life Sciences*, Vol.6 no.2 (April 2002)

Special Issue: Evolutionary Economics ed. by Akio Matsumoto and Yuji Aruka

(学会事務局での頒価送料込み 1500円)

『進化経済学論集1』(創立大会)1997年